

令和4年度 農作物病害虫発生予察情報 発生予報 第6号（10月予報）

令和4年9月27日 秋田県病害虫防除所

【内容】 Ⅰ. 予報の要点 Ⅱ. 主要病害虫の向こう1か月の予報 Ⅲ. 発生予報と防除対策 Ⅳ. 気象予報 Ⅴ. 気象データ Ⅵ. 用語の説明	【問合せ先】 秋田県病害虫防除所 018-881-3660 秋田県農業試験場 018-881-3326
【お知らせ】 ◇今回の予報対象期間は10月を主とします。次回の発表は令和5年3月24日の予定です。 ◇病害虫発生予察情報は秋田県病害虫防除所のウェブサイトでご覧いただけます。 https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/ ◇短期暴露評価により使用方法が変更された農薬の情報については、秋田県のウェブサイトでご確認ください。 https://www.pref.akita.lg.jp/suiden/ ◇農薬の登録内容は随時更新されますので、防除薬剤については指導機関にご相談ください。 最新の農薬登録状況は、農林水産省ウェブサイト「農薬登録情報提供システム」でご確認ください。 https://pesticide.maff.go.jp/ ◇病害虫発生予察情報の発表をお知らせするメールマガジンはこちらのウェブサイトでご登録いただけます。 https://www.e-komachi.jp/	

I. 予報の要点

小 麦	雪腐病の感染量は県中央部が平年並、県南部がやや多いと予想されます。ほ場の排水対策を徹底し、連作で今年の春季に発生が多かったほ場では、根雪直前に薬剤散布をしてください。
野 菜	ねぎ（秋冬どり）では、さび病及び黒斑病・葉枯病の発生量が多いと予想されます。適正な施肥に努め、発病初期から薬剤散布をしてください。 キャベツ（秋冬どり）では、ハスモンヨトウの発生量が多いと予想されます。9月27日発表の防除対策情報第12号を参照し、防除対策を実施してください。

II. 主要病害虫の向こう1か月の予報

作目名	病害虫名	対象地域	発生・感染時期	発生・感染量	
				現況	予報
小麦	雪腐病	県中央部	—	—	平年並
		県南部			やや多い
ねぎ (秋冬どり)	さび病	全県	—	多い	多い
	べと病	全県	—	平年並	平年並
	黒斑病・葉枯病	全県	—	多い	多い
	アザミウマ類 (ネギアザミウマ)	全県	—	やや少ない	平年並
キャベツ (秋冬どり)	コナガ	全県	—	多い	多い
	モンシロチョウ	全県	—	多い	多い
	ヨトウガ(第2世代)	全県	—	やや少ない	平年並
	ハスモンヨトウ	全県	—	多い	多い

III. 発生予報と防除対策

A 小麦

病害虫名	予報内容	
	感染時期	感染量
1. 雪腐病	—	県中央部：平年並（前年並） 県南部：やや多い（前年よりやや多い）

(1) 予報の根拠

- ア、東北地方寒候期予報によると12～2月の降雪量はほぼ平年並と予報されている（ /±）。
- イ、3～4月の巡回調査における葉腐れ・枯死面積率は県中央部が0.3%（平年1.6%）で平年並（ /±）、県南部が34.8%（平年27.5%）でやや多かった（ /+）。

(2) 防除上注意すべき事項

- ア、早播、窒素肥料の多用、リン酸肥料の不足時に発生が多くなるので、適期適量の播種に努め、肥培管理に注意する。
- イ、水田転作での栽培は、排水対策を徹底する。
- ウ、県内では雪腐小粒菌核病の発生が主体である。連作で今年の春季に発生が多かったほ場では、根雪（平年の初日は秋田市12月6半旬、横手市12月3半旬）直前にシルバキュアフロアブル、バシタック水和剤75、フロンサイドSC、モンカット水和剤のいずれかを1回散布する。
- エ、無人航空機で防除を行う場合は、根雪直前にシルバキュアフロアブルを散布する。
- オ、薬剤散布後、根雪までの期間が長かったり、多量の降雨があった場合は、再散布を行う（ただし、シルバキュアフロアブルの根雪前の使用回数は1回である）。
- カ、根雪期間が100日を超えると被害が著しくなるので、特に、根雪期間が長い県南部では、根雪直前の防除に努める。

B ねぎ（秋冬どり）

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
1. さび病	－	多い（前年よりやや多い）

（1）予報の根拠

- ア、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている（ /±）。
- イ、9月4半旬の巡回調査における発病株率は9.3%（平年2.7%）で高かった（ /+）。

（2）防除上注意すべき事項

- ア、軟弱徒長になると発生しやすいので、過剰な施肥は避ける。
- イ、発病が多くなってからでは防除効果が劣るので、発病初期からアミスター20フロアブル（RACコード：11）、オンリーワンフロアブル（RACコード：3）、カナメフロアブル（RACコード：7）などを散布する。また、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。
- ウ、耐性菌の出現を回避するため、RACコードが3、7、11の薬剤は連用しない。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
2. べと病	－	平年並（前年並）

（1）予報の根拠

- ア、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている（ /±）。
- イ、9月4半旬の巡回調査における発病株率は0%（平年0%）で平年並だった（ /±）。

（2）防除上注意すべき事項

- ア、軟弱徒長になると発生しやすいので、過剰な施肥は避ける。
- イ、降雨が続くと発病しやすく、被害の拡大が早い。定期的に、ジマンダイセン水和剤（RACコード：M3）等を散布し、予防に努める。
- ウ、発病が見られたらオロンディスウルトラSC（RACコード：49・30）、ザンプロDMフロアブル（RACコード：45・40）、リドミルゴールドMZ（RACコード：4・M3）等を散布する。また、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。
- エ、耐性菌の出現を回避するため、RACコードが4、11、27、40、45、49の薬剤は連用しない。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
3. 黒斑病・葉枯病	－	多い（前年より多い）

（1）予報の根拠

- ア、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている（ /±）。
- イ、9月4半旬の巡回調査における発病株率は20.1%（平年10.1%）で高かった（ /+）。

（2）防除上注意すべき事項

- ア、黒斑病は草勢が衰えると発生しやすく、葉枯病は軟弱徒長で発生しやすいため、適正な施肥に努める。
- イ、本県における秋季の発生は、葉枯病が主である。葉枯病は収穫物の品質低下となる黄色斑紋病斑を引き起こすので、アミスター20フロアブル（RACコード：11）、ダコニール1000（RAC

コード：M5)、テーク水和剤(RACコード：3・M3)、パレード20フロアブル(RACコード：7)を組み合わせて、10月前半まで約10日間隔で散布する。また、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。

ウ、耐性菌の出現を回避するため、同じRACコードの薬剤は連用しない。

病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
4. アザミウマ類(ネギアザミウマ)	—	平年並(前年並)

(1) 予報の根拠

ア、向こう1か月の気温は高いと予報されている(/+)。

イ、9月4半旬の巡回調査における食害株率は36.5%(平年48.8%)でやや低かった(/-)。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、多発すると防除効果が劣るので、発生初期から、アグロスリン乳剤(RACコード：3A)、アルバリン顆粒水溶剤/スタークル顆粒水溶剤(RACコード：4A)、グレーシア乳剤(RACコード：30)、ダントツ水溶剤(RACコード：4A)、ディアナSC(RACコード：5)、ファインセーブフロアブル(RACコード：34)、ベネビアOD(RACコード：28)などを茎葉散布、又はダントツ粒剤(RACコード：4A)、プリロツソ粒剤(RACコード：28)、ミネクトデュオ粒剤(RACコード：28・4A)を株元散布する。また、収穫前日数に注意して薬剤を選定する。

イ、薬剤感受性の低下を回避するため、同じRACコードの薬剤は連用しない。

C キャベツ(秋冬どり)

病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
1. コナガ	—	多い(前年より多い)

(1) 予報の根拠

ア、向こう1か月の気温は高いと予報されている(/+)。

イ、9月4半旬の巡回調査における株当たり幼虫数は0.1頭(平年0.0頭)が多かった(/+)。

ウ、秋田市予察ほにおける9月1～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は6頭(平年13.8頭)で平年並だった(/±)。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、幼虫が見られる場合は、アフーム乳剤(RACコード：6)、グレーシア乳剤(RACコード：30)、コテツフロアブル(RACコード：13)、スピノエース顆粒水和剤(RACコード：5)、ディアナSC(RACコード：5)、トルネードエースDF(RACコード：22A)、フェニックス顆粒水和剤(RACコード：28)、プレバソソフロアブル5(RACコード：28)などを散布する。また、収穫前日数に注意して、薬剤を選定する。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
2. モンシロチョウ	—	多い（前年より多い）

(1) 予報の根拠

ア、向こう1か月の気温は高いと予報されている（ /+）。

イ、9月4半旬の巡回調査における株当たり幼虫数は0.1頭（平年0.0頭）で多かった（ /+）。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、コナガとの同時防除が可能である。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
3. ヨトウガ（第2世代）	—	平年並（前年並）

(1) 予報の根拠

ア、向こう1か月の気温は高いと予報されている（ /+）。

イ、9月4半旬の巡回調査における株当たり幼虫数は0頭（平年0.1頭）でやや少なかった（ /-）。

ウ、秋田市予察ほにおける9月1～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は1頭（平年5.1頭）でやや少なかった（ /-）。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、コナガとの同時防除が可能である。

イ、老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫のうちに防除する。

病 害 虫 名	予 報 内 容	
	発 生 時 期	発 生 量
4. ハスモンヨトウ	—	多い（前年より多い）

(1) 予報の根拠

ア、向こう1か月の気温は高いと予報されている（ /+）。

イ、9月4半旬の巡回調査における株当たり幼虫数は0.4頭（平年0.0頭）で多かった（ /+）。

ウ、秋田市予察ほにおける9月5半旬の株当たり卵塊数は0.04個（平年0個）だった（ /+）。

(2) 防除上注意すべき事項

ア、9月27日発表の防除対策情報第12号を参照して防除する。

IV. 気象予報

令和4年9月22日仙台管区気象台発表 東北地方1か月予報（9月24日～10月23日）

（1）予報のポイント

- ・ 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

（2）向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（東北日本海側）

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	10%	20%	70%
降 水 量	30%	30%	40%
日 照 時 間	40%	30%	30%

（3）気温経過の各階級の確率（東北日本海側）

	低い	平年並	高い
9/24～9/30（1週目）	10%	10%	80%
10/1～10/7（2週目）	10%	20%	70%
10/8～10/21（3～4週目）	20%	30%	50%

令和4年9月20日仙台管区気象台発表 東北地方寒候期予報（12～2月）

（1）予報のポイント

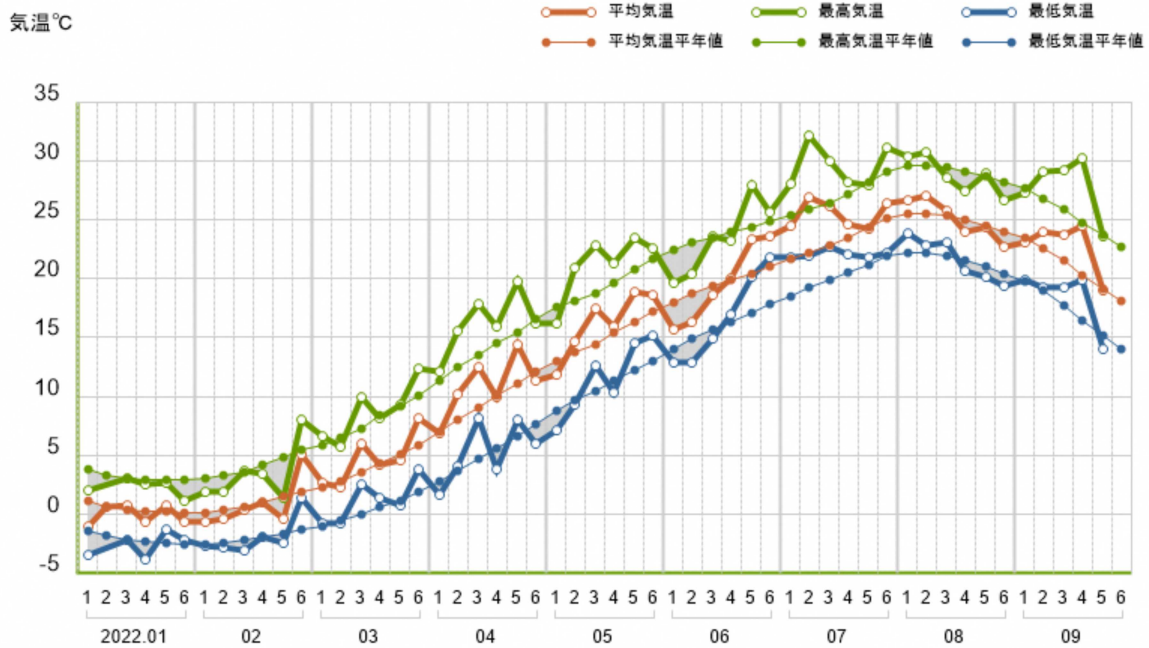
- ・ 冬の気温は、ほぼ平年並でしょう。
- ・ 冬の降水量は、ほぼ平年並の見込みです。
- ・ 冬の降雪量は、東北日本海側では、ほぼ平年並でしょう。

（2）冬（12～2月）の気温、降水量、降雪量の各階級の確率（東北日本海側）

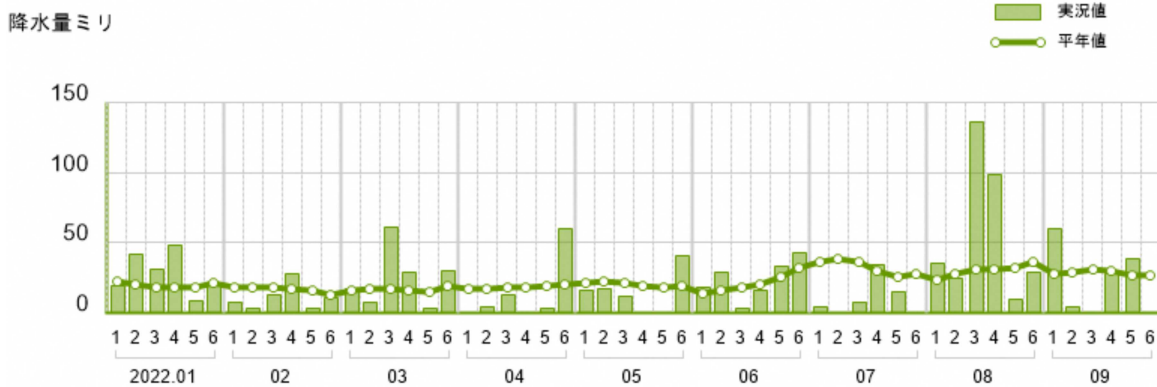
	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	40%	30%	30%
降 水 量	30%	30%	40%
降 雪 量	30%	30%	40%

V. 気象データ (秋田市、1月1半旬～9月5半旬 秋田県農業気象システムより)

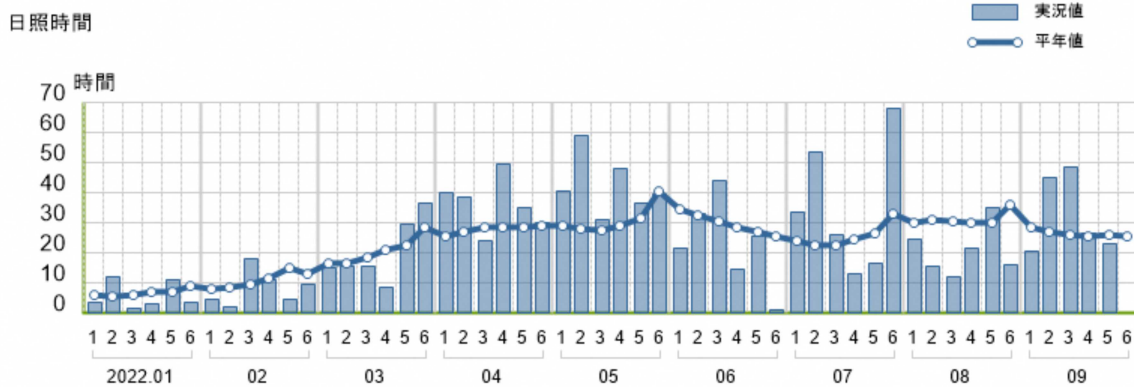
気温の推移



降水量の推移



日照時間の推移



VI. 用語の説明

発生時期

平年の発生日からの差を5段階評価で予測します。

日数	~-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	+1	+2	+3	+4	+5	+6~
評価	早い	やや早い		平年並				やや遅い		遅い			

発生量

発生密度の平年値からの差を5段階評価で予測します。密度のばらつきの差で示されるので、毎年発生密度が大きく変化する病害虫では、平年値からよほど大きくずれないと「多い」や「少ない」の評価にはなりません。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多い」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少ない」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

			平年値 ↓			
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少ない	やや少ない	平年並		やや多い	多い

予報の根拠

予報の根拠に示している（ / ）は予察の要因で、（発生時期/発生量）を表しています。

発生時期が「遅い」場合は「+」、「早い」場合は「-」となります。発生量が「多い」場合は「+」、「少ない」場合は「-」となります。

発生時期、発生量ともに、「平年並」の場合は「±」、関係しないときは「空欄」となります。

気象の確率予報

出現が見込まれる確率予報は、高い（多い）確率が50%以上の場合は「高い（多い）」、低い（少ない）確率が50%以上の場合は「低い（少ない）」となります。低い（少ない）確率が20%で平年並と高い（多い）確率がそれぞれ40%の場合は「平年並か高い（多い）」、高い（多い）と平年並が40%で低い（少ない）が20%の場合は「平年並か低い（少ない）」となります。また、それぞれの確率が30~40%の場合は「ほぼ平年並」となります。

出現確率(低い(少ない):平年並:高い(多い))	解説
高い(多い)確率が50%以上 (20:40:40)	高い(多い) 平年並か高い(多い)
平年並の確率が50%以上 (40:30:30) (30:40:30) (30:30:40)	平年並 ほぼ平年並
(40:40:20)	平年並か低い(少ない)
低い(少ない)確率が50%以上	低い(少ない)

半旬のとり方

ここで扱われる「半旬」とは暦日半旬のことで、毎月1日から5日ごとに区切った期間となります。1半旬は1日から5日まで、2半旬は6日から10日までであり、以降6半旬まで5日ごとに該当する期間を指します。

農薬の適正使用・管理の徹底を！

農薬使用にあたっては、十分な注意のうえ、安全かつ適正に使用してください。

- 安全使用の基本事項
 - ・ 農薬の使用基準を遵守する。
 - ・ 病虫害の発生状況を把握し、必要最小限の農薬を使用する。
 - ・ 防除履歴を必ず記録する。

- 農薬使用上の注意
 - ・ 農薬の散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）させないようにする。
 - ・ 家畜や蜜蜂などに影響のある農薬を使用する場合は、地域内の畜産農家及び養蜂業者と緊密に連携し、散布日時や散布地域、使用農薬の種類などを散布前に確実に周知する。
 - ・ 農薬散布後は散布器具の洗浄を徹底する。
 - ・ 特に、土壌くん蒸剤は使用上の注意事項を遵守する。
 - ・ 農薬散布作業にあたっては、装備と体調を万全にする。

- 農薬取扱い上の注意
 - ・ 農薬は保管庫に入れ、施錠して保管する。
 - ・ 農薬を他の容器（清涼飲料水の容器など）へ移し替えない。